

腸内環境と健康エリア

近年、腸内環境を介したヘルスケアへの意識が高まり、商品開発が活発化しています。腸内環境をケアすることで、脳機能、肌美容、抗メタボ、免疫賦活など、さまざまな健康機能の向上に関連することが最近の研究からわかってきました。腸内環境の改善に有用な原料素材や腸内細菌叢の分析・評価技術、腸内環境をコンセプトとした商品開発におすすめの副素材などを本エリアに集め、市場活性化につなげていきます。

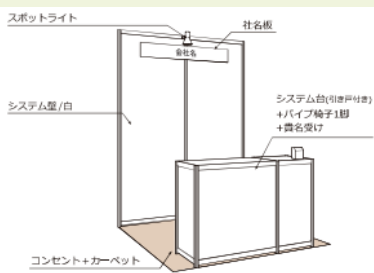
エリアスポンサー（A1ポスター・A4チラシ） 99,000円(税込み)募集中！

連日、著名な講師陣によるセッションエリアでPRするチャンスです！

ミニブース装飾
▶ ¥264,000 / 1ブース(2×2m)
ミニブース小間料金に含まれる






- 和文社名板
- カーペット
- システム壁/白
(システム寸法:W1980mm×H2700mm)
- システム台(引き戸付き)
(寸法:W1485mm×D495mm×H1020mm)
- 貴名受け1個
- バイク椅子1脚
- スポットライト1灯
- 期間中のブース内清掃
- 100V/800wコンセント1個
(1kw電気使用量含む)

※ポスター、パネル製作は含まれておりません。



ミニブース(2mx2m)
¥264,000でご出展の場合は、
出展プレゼン15分が付きます。

腸内環境と健康セッション @ifia/HFE JAPAN2026 東京ビッグサイト

講演テーマ	講師紹介	研究内容
 腸内細菌叢に関する研究・臨床試験	京都府立医科大学 教授 高木智久氏	炎症性腸疾患の診療に軸足を置いて消化器診療を行っています。基礎研究分野でも消化管炎症や消化管免疫に関する研究を展開しています。
 腸内細菌と認知機能の関係	国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 佐治直樹氏	認知症の危険因子に関する研究やもの忘れ外来担当医として認知症診療に携わる。認知症と日本食パターンのスコア、腸内細菌との関連性を発見するなど研究者として活躍しています。
 腸内フローラについて	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 副所長 國澤純氏	健康社会の実現に向けた大きな鍵は「腸内環境の見える化」であると考え、様々な腸内細菌に対する抗体ライブラリーの樹立や、腸内代謝物の簡便な測定技術を開発し、「安く」「早く」「簡単に」腸内環境を可視化できるような研究を進めています。
 腸内環境とメンタルヘルスの関係	摂南大学教授 井上亮氏	腸内細菌叢(腸内フローラ)について、ヒトに限らず様々な動物で研究しています。腸内細菌叢の機能や役割に限らず、腸内細菌叢に働きかける機能性素材の研究も行っています。
 腸内細菌叢を改善する効果-食物繊維	大妻女子大学教授 青江誠一郎氏	穀物および藻類中の食物繊維の機能性研究がテーマ。特に、内臓脂肪型肥満、腸内環境の改善に関わる食餌因子について研究しています。
 腸内細菌叢を改善する効果-プレ・プロバイオティクス	藤田医科大学教授 栃尾巧氏	長年にわたり、化粧品・食品・化学品の大手メーカーで研究開発と商品化に従事。企業での研究の社会実装経験を活かし、現在は藤田医科大学にて研究・教育に従事します。
 腸内細菌叢を改善する効果-短鎖脂肪酸	腸内デザイン学会 代表理事 福田真嗣氏	科学的な根拠を基盤に短鎖脂肪酸について解説を行うとともに、「腸からの健康寿命の延伸」をミッションとして実際に生活者に届けるプロダクトに関する研究を紹介します。

※講師情報は2025.10.20現在のものであり、変更になる場合がございます。